

# 片耳難聴者共に前へ

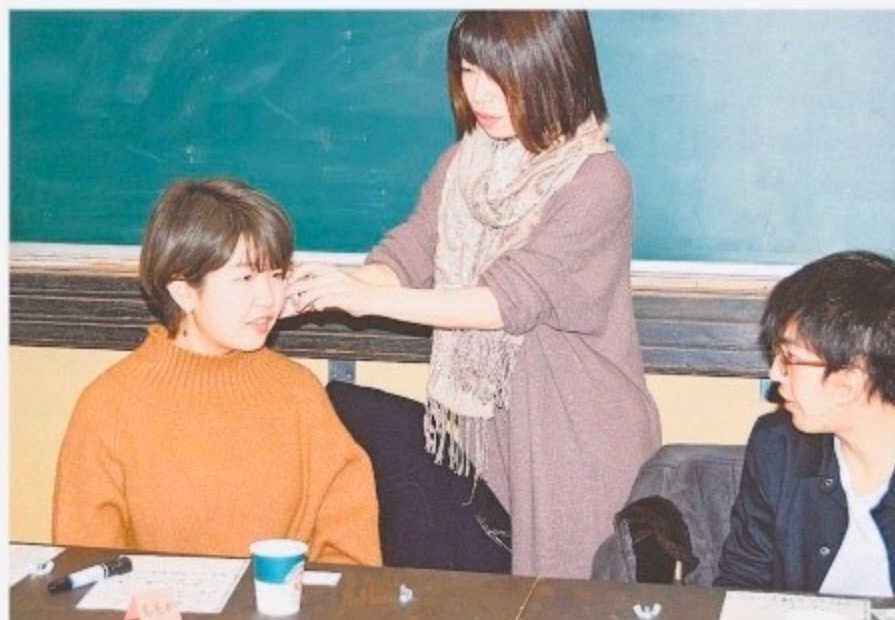
片耳だけ聞こえない難聴者同士が気軽にしゃべりする「片耳難聴カフェ」が14日、一関市内のシェアスペースで開かれた。当事者と家族らでつくる、きこいろ(岡野由美代表)が今春から全国各地で開き、10回目の節目となる今回が県内初開催。岩手、宮城両県の4人が特有の悩みや苦労を時折、笑顔を交えて語り合い、前向きに生きる力を共有した。

## 一関

小学6年の時、右耳が聞こえなくなった岩手大4年の水野百花さん(21)＝盛岡市＝は来春から小学校教諭として県内の教壇に立つ。「聞こえない先生と言われるより、自分から『聞こえづらい』と言おう。難聴の子がいたら、力になりたい」と決意した。

先天的に左耳が聞こえない

## 県内初、当事者ら交流 不安や悩み解消の一助



麻野美和さん(中央)に勧められ、補聴援助機器を使ってみる水野百花さん(左)

宮城教育大2年の猿田晃永さん(20)＝仙台市＝は「生まれつきなので、困った事はなかった」と明るく語る一方「遺伝したらどうしよう。俺のせいなのか」と不安も口にした。

「周りに人がいるだけで話し掛けられているのでは」と

「聞きこえる人、それこそわすれ」。「聞こえる人より、察しようとする力がある」。紫波町の女性保育士の発言には、他の3人も「分かる分かる」と大きくうなずいた。

きこいろ事務局長で、自身も片耳難聴の麻野美和さん(28)＝気仙沼市＝は「ちよつとした困り事でも共感してもらえると、また頑張ろうという気持ちになれる」と2時間のカフェを振り返った。

麻野さんによると、片耳難聴は先天性が千人に1人の割合で発症し、おたふく風邪などによる後天性を加えると、国内に36万人いると推計される。常に聞こえないわけではなく、見た目では難聴と分かりづらく、周囲の理解が得られにくい。

両耳の聴覚障害者と悩みが異なることもあり、麻野さんが発起人となって8月きこいろを設立した。会員65人のうち十数人の運営メンバーがQOL(生活の質)向上を目指し、各地でカフェのほかレクチャー(学習会)を開いている。